

4 地区小体連のあゆみ

[1] 宮崎市小学校体育連盟

I 年間事業

期 日	曜	事業名	主 な 内 容	会 場
4月28日	火	常任理事会	年間事業計画・第1回理事会内容について	生目台東小学校
5月7日	木	第1回理事会	役員選出 事業計画	西部地区改善センター
5月26日	火	常任理事会	水泳競技大会検討・研究推進	生目台東小学校
6月9日	火	第2回理事会	水泳競技大会検討・研究推進	遊古館（研修室）
7月9日	木	常任理事会	水泳大会プログラム編成	生目台東小学校
7月22日	水	第3回理事会	水泳大会前日準備	県総合運動公園水泳場
7月23日	木	第47回宮崎市小学校水泳競技大会		県総合運動公園水泳場
8月3日	月	常任理事会	水泳大会反省・陸上競技大会検討・研究推進	生目台東小学校
8月7日	金	体育実技指導者地区別講習会		生目台東小学校
8月24日	月	第4回理事会	M-KIDS講習会 陸上競技大会検討 研究推進	市総合体育館（剣道場） 市中央公民館
10月15日	木	常任理事会	陸上競技大会プログラム編成	生目台東小学校
10月22日 23日	木 金	宮崎県学校体育研究発表大会日南・串間地区大会		日南総合運動公園体育館 日南市立吾田小学校
10月26日	月	第5回理事会	陸上大会前日準備	生目の杜運動公園
10月27日	火	第50回宮崎市小学校陸上競技大会		生目の杜運動公園
11月20日	金	授業研究会	授業研究・研究協議	国富小学校
12月18日	金	授業研究会	授業研究・研究協議	大塚小学校
1月29日	金	常任理事会	年間反省・次年度に向けて	生目台東小学校
2月19日	金	第6回理事会	年間事業報告・研究部反省 事業部反省・次年度の計画	市中央公民館

II 事業部のあゆみ

1 水泳競技の部

- (1) 大会名 第47回宮崎市小学校水泳競技大会
- (2) 実施期日 平成27年7月23日（木）
- (3) 会 場 KIRISHIMA ヤマザクラ宮崎県総合運動公園水泳場
- (4) 参加児童 宮崎市内各小学校5、6年生代表児童（のべ1463名）
- (5) 実施種目

○ 25m（自由形、平泳ぎ）	○ 50m（自由形、平泳ぎ）
○ 100mリレー	○ 200mリレー
- (6) 競技方法
 - タイムレースとする
 - 出場は、リレーを除き、一人1種目とする。
 - 競技は、原則として学年別、男女別とする。
 - その他細部については、宮崎市小学校体育連盟による競技規則を適用する。
- (7) 日 程

開会式	8：30	競技開始	9：00
競技終了	15：10	閉会式終了	15：30
- (8) 表 彰
 - 各ブロックで測定した記録を集計し、上位10位までを入賞とし表彰する。
 - 各ブロック内、個人種目は3位以内、リレー種目は1位に賞状を渡す。
 - 参加児童全てに記録証を渡す。

(9) 反省

本年度は、県総合運動公園水泳場を使用し、市内5・6年生の代表児童が集い一斉開催で行った。競技の進行に留意し、予定時刻通りに大会を終了することができた。これは、役員による事前検討会を十分に行之、係がうまく連携しながら運営できたとともに、水泳連盟の協力があつたからである。特に、水泳連盟の方々には、タッチ板や電光掲示板の設置から記録集計の補助等までかかわっていただき、大変ありがたかつた。また、選手が炎天下で長時間過ごすことに関しては、各学校の待機場所に簡易テントの準備をしたり、各学校で熱中症対策をしたりして無事に大会を進行することができた。

参加した児童は学校での事前指導が十分に行われており、きびきびと行動することができた。また、応援する態度も良く、最後まで熱心な声援が響いていた。保護者の方にも事前に学校を通し応援時のことの連絡を行い、マナーを守り熱心な応援が見られた。多くの人が集まる大会なので、地震や津波が起こつた場合の避難マニュアルを作り、体育主任やそれぞれの学校の先生方と共通理解を図つた。今後、さらに検討を重ねていきたい。

次年度は一昨年と同様に、全小学校を13ブロックに分けて開催する予定である。県内トップレベルの施設である本会場で開催する意義も大きい、出場できる選手の数を増やし多くの児童がチャレンジできる大会にするためにもブロック別開催は必要だと考える。

今後も、本年度のように県総合運動公園水泳場で開催する大会と各ブロックで開催する大会を隔年で実施することによって、どちらのメリットも生かしながら、より充実した大会になれるよう、市小学校体育連盟として努力していく所存である。

2 陸上競技の部

- (1) 大会名 第50回宮崎市小学校陸上競技大会
(2) 実施期日 平成27年10月27日(火)
(3) 会場 宮崎市生目の杜運動公園陸上競技場
(4) 参加児童 宮崎市内小学校6年生(参加人数3851名)
(5) 競技種目
◎一般参加種目 80m走 50mハードル走 ロードレース
◎選手参加種目 100m走 50mハードル走
800m走(女子) 1000m走(男子)
走り幅跳び 走り高跳び
ソフトボール投げ 400mリレー
(6) 競技方法
○選手種目については、タイムレースとする。
○児童の出場は、リレー(選手)を除き一人1種目とする。
○児童の服装は、体育服とし、スパイク使用は禁止とする。
○細部については、宮崎市小学校体育連盟による競技規則を適用する。
(7) 日程
開会式 9:10 競技開始 9:50
競技終了 15:00 閉会式終了 15:20
(8) 表彰
○選手種目市内上位10位までを入賞とし表彰する。
○陸上教室参加児童すべてに記録証または努力賞を渡す。
(9) 反省

市内全小学校6年生と役員、保護者等で4000人を超える人が集まる盛大な大会となった。選手の児童、一般走の児童どちらの児童も自分の持てる力を発揮しようとして一生懸命に自分の出場する種目に取り組んでいた。また、学校での学習がしっかり行なわれており、レベルの高い動きをしている児童が多くいた。さらに自分の記録がよくなって喜ぶ児童の姿や順位が上位に入つて喜ぶ姿も見られた。応援では、自分たちの学校の応援はもちろんのこと、隣接する学校と共同で応援する学校もあり、盛り上がった。

昨年度に引き続き、写真判定機の操作補助等、陸上連盟の方々に協力をいただいた。陸上連盟の方々には、審判や判定の仕方等にも助言をもらい大変感謝している。今後もぜひ協力を要請したいと考えている。また、運営や児童管理を行う先生方が様々な観点から協力してもらい、大会進行を円滑に行うことができた。

市内全小学校の6年生が一堂に会して大会を開催する意義は大きい。大規模な大会を開催する上で配慮すべきことはいろいろとあるが、子どもたちのために今後も実りある陸上競技大会にしていきたい。

Ⅲ 研究部のあゆみ

1 研究主題

健やかな心と体をはぐくみ、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育科学習を目指して ～発達の段階を考慮した「つながり」のある授業づくりの工夫を通して～

2 研究の目的

運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるために、体を動かすことの楽しさや運動の特性に触れながら、児童一人一人が自ら運動する意欲をもって、学習を進めることは重要なことである。

そのために、小・中・高1 2年間を見通した指導内容の明確化と体系化を図り、児童が課題をもち、それらを解決しながら、体の動かし方や運動の技能を身に付ける指導方法の工夫を行い、その中で「運動が好き」「体育が楽しい」と児童が感じることができるよう授業を展開する。

また、宮崎市小体連が研究してきた内容を、より多くの教職員に伝え、宮崎市全体の授業力向上を目指す。

3 研究内容

(1) 課題を明確にした学習の在り方

①指導内容の明確化	学習指導要領を基にして、易しいゲーム、簡易化されたゲームの様相を考える。
②課題について	ア オリエンテーションで、課題を見付けるための「出会いのゲーム」を行う。 イ 運動・ゲームの考え方を明確にして、何のためにゲームを行うのか、何を学ぶのかをはっきりさせる。 ウ 課題を明確にしたゲームについては、発達の段階を考慮して、小学校段階では、学級全体の課題とチームの課題を中心に考え、ゲームを通して解決していく。

(2) 基礎的な運動の技能や知識の定着の在り方

①基礎感覚を高める運動	準備運動の中で行う。ゲームでは直接使わないが、基礎的な運動の技能を支える動きとなる運動を毎時間反復することで、技能を高める。
②基礎的な運動の技能を高める運動	「ボール操作」や「ボールを持たないときの動き」を準備運動や個人スキルアップ・チームスキルアップとして取り入れ、技能を高める。
③学習の見通し	本時のめあてを明確に意識させる。振り返りの段階でもめあてを意識した振り返りができるようにし、学習したことを全員で共有化する。
④児童の変容が分かる工夫	事前事後のアンケートの実施や学習カードの工夫（単元を通して1枚、記述式の振り返り欄を設ける）を通して、児童の思考・判断や技能の変容が分かるようにする。

(3) 研究内容の伝達

①情報の収集	指導者のニーズに応じた資料を作成したり収集したりして、体育科学習の充実を図る。
②情報の発信	今年度の研究で作成、収集した体育指導に関する資料を、宮崎市小体連ホームページに掲載し、研究内容を幅広く伝える。

4 研究の実際

(1) 全体研究

- 共通理解（研究の考え方や研究内容の共通理解、授業の在り方等）

(2) 班別研究

- ゲーム・ボール運動班…ソフトバレーボールの指導案等資料の作成、研究授業の実施
- ニュースポーツ班…ティーボールの指導案等資料の作成、研究授業の実施
- 調査班…器械運動に関する資料の作成、収集
- ICT班…映像資料の活用計画書の作成

(3) 授業研究会

単元（領域）	学年	授業者
ティーボール（ボール運動：ベースボール型）	6年	国富小学校 中武 幹 教諭
ソフトバレーボール（ボール運動：ネット型）	6年	大塚小学校 江藤彰一 教諭



準備運動～「打つ」動きを繰り返し行い、基礎感覚を高めます。



毎時間の「課題」を明確にし、そのポイントを確認します。



スキルアップテキストを計画的に活用して、課題の解決を図ります。

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ ボールを落とさないように、前後左右にすばやく動けるようになる。 ○ ねらったところにパスをだすことができるようになる。
行い方	<ol style="list-style-type: none"> ① 攻撃側1人、守備側2～3人で行う。 ② 攻撃側がケンステップに向かってボールを投げ、守備側がケンステップにボールを落とさないようにする。 ③ 守備側がケンステップに落ちないようにボールを弾いて、守備側の味方がノーバウンドキャッチしたら守備側に4点。見方がキャッチできなければ1点。ケンステップにボールが落ちたら攻撃側に1点。
場	<ul style="list-style-type: none"> ○ ハーフコートを使用。 ○ ボールを投げる人とケンステップの間は、3mくらいゆら始め徐々にせまくして。 ○ フープが落ちてきたらフープを増やす。

スキルアップテキスト（ソフトバレーボール）
「仲間につなげ」

練習・ゲーム名	ボールキャッチゲーム
身につける技能	技能① ボール操作 ボールを持たない動き オーバー アンダー スライク(こうげきする) 技能② サーブをうける スライクをうける その他()
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールの落下地点に、早く動く。 ・コートをよく見て、空いているところをねらう。
行い方	<ol style="list-style-type: none"> ① 2対2の形でコートに入る。 ② ボールを投げ入れるときは、両手で下からボールを相手コートに投げ入れる。 ③ ボールを受け取る方は、落下地点に素早く動きボールをつかむ。 ④ ボールをキャッチできたら1点。攻守を入れ替える。 ⑤ ②～④を繰り返す。メンバーを入れ替えながら練習する。

スキルアップテキスト（ソフトバレーボール）
「ボールキャッチゲーム」

5 研究の成果と課題

(1) 成果

- 児童の思考に即した単元計画を作成したことにより、児童はその時間の課題を意識しながら学習に取り組むことができた。
- スキルアップテキストを活用して、基礎的な動きを繰り返し行わせたことで、児童の技能を高めることができた。
- ルールや指導計画を分かりやすいものにしたことにより、多くの教員が実践しやすい体育科学習の在り方を提示することができた。

(2) 課題

- スキルアップテキストは効果的であったが、児童への説明に時間がかかることがあった。テキストを映像化するなどのさらなる工夫が必要である。
- 研究の成果が全体に浸透していない部分がある。研究内容の広げ方について、検討する必要がある。